

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方修正、 は下方修正)

前回調査からの主要変更点

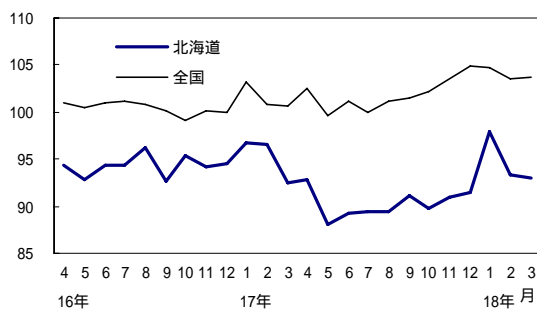
	前回 (平成 18 年 2 月)	今回 (平成 18 年 5 月)	
鉱工業生産	緩やかに増加	増加	
観光	持ち直している	やや減少している	

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産及び水産業の水揚量は前年を上回っている。
 生乳生産は、牛乳等向けが減少した一方、乳製品向けが増加したことから、総量では、948,226tと前年比で2.3%増となった。水産業(主要11港主要品目)は、この時期の主力であるほっけは前年を下回ったが、すけとうだらが前年を大きく上回ったことから、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産は増加している。
 食料品・たばこは、道内外での道産米の需要増から精米が増加したことや、第3のビールが好調なことから増加している。パルプ・紙は、道内外の広告向けの印刷用紙(塗工)や新聞巻取紙の需要がおう盛なことから増加している。電気機械は、携帯電話向けの水晶振動子や、配電盤などが好調であったことから増加している。窯業・土石は、本州向けのセメント需要が一服したことから減少している。金属製品は、携帯電話用の鉄塔などにより増加している。また、輸送機械では、自動車駆動伝導装置製造ラインの増設などから好調に推移している。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
食料品・たばこ	26.5	5.8	3.6	5.9	3.3
パルプ・紙	12.1	1.3	3.2	0.3	4.5
電気機械	9.5	1.1	10.8	8.9	15.8
窯業・土石	9.0	8.8	7.7	1.7	7.4
金属製品	9.0	4.9	8.2	7.2	39.0
鉱工業	100.0	0.8	4.5	3.1	3.9

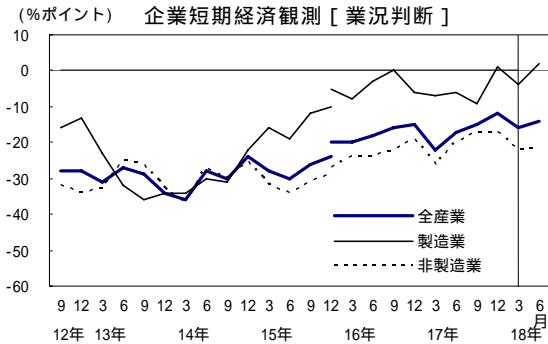
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

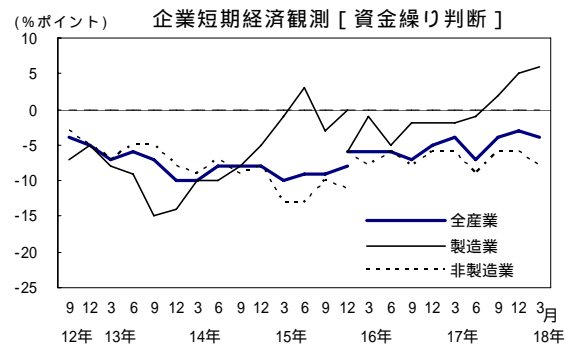
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
 2. 平成18年3月の北海道は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

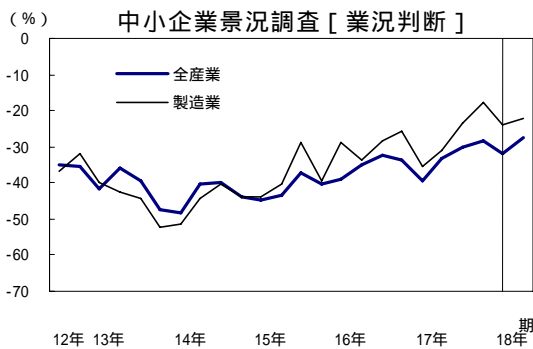
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年6月は予測。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

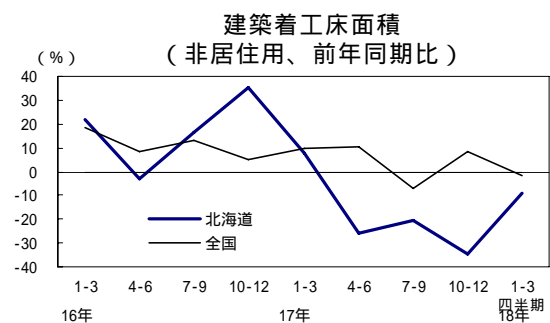
「不動産の売買取引、個人住宅物件の新築が依然として低水準で推移している(司法書士)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

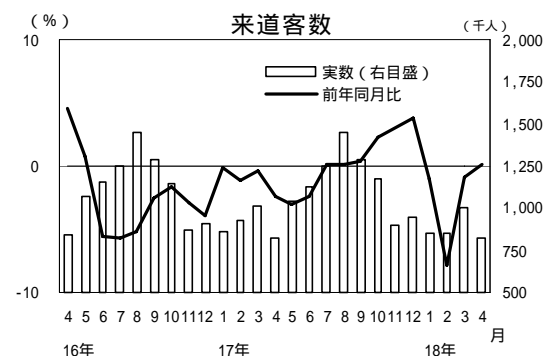
	(前年度比、%)	
	17年度実績見込み	18年度計画
全産業	12.2(2.7)	17.0
製造業	49.1(0.4)	32.8
非製造業	4.2(4.9)	7.0

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガス



(5) 観光はやや減少している。

来道客数は、2月は、天候不順から欠航が相次いだことや、連休が1日少なかったことから前年を大きく下回った。1、3月は、主力である東京方面からの航空旅客は前年を上回ったが、その他の地域からの来道客が減少したことから前年を下回った。4月は東京方面からの航空旅客が増加したことから前年並みとなっている。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

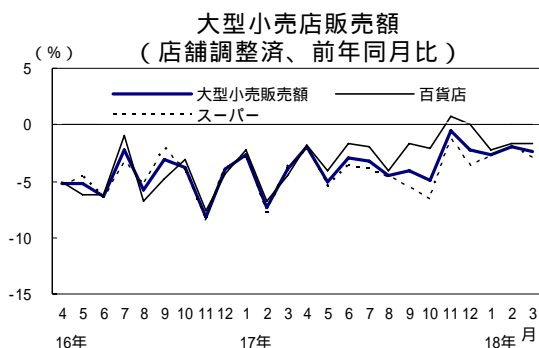
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、気温が低かったことから防寒着など冬物衣料品の動きが好調だったものの、一部で商材不足となったことなどから、前年を下回った。2月は、バレンタインや恵方巻きなどの季節食材や、宝石・貴金属、時計といった身の回り品は好調だったものの、週末毎の天候不順から来客数が落ち、前年を下回った。3月は、前半は天候も良く、ホワイトデー需要も好調で高級バックやアクセサリー、靴など身の回り品に動きがみられたが、後半は寒さが戻り、主力の春物衣料の動きが鈍かったことから前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、北海道地区の4月の売上高は、前年同月比で3.5%減となっている。

スーパーは、来客数や買上点数など客の動きは良くなっているが、飲食料品では野菜や果物等が相場安に加え、他店や他業種との競争激化により単価の下落が続いており、衣料品も天候不順が影響し、前年を下回った。

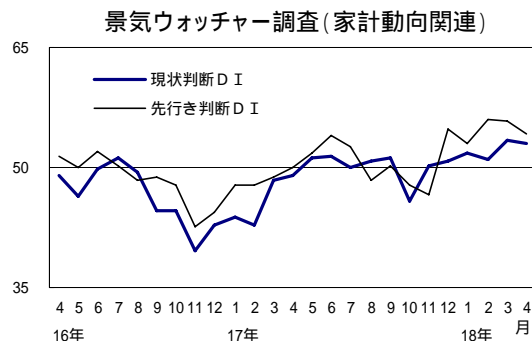
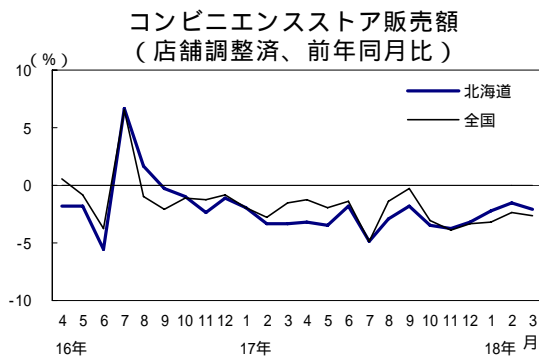
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「気温の低い日が続いており、春物商材や行楽商材の動きが鈍い。生鮮食品、加工食品ともに価格低下が続いており、既存店の売上がなかなか上がらない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月
大型小売店	3.3	3.9	2.5	2.3
百貨店	2.5	2.5	0.4	1.8
スーパー	3.8	4.6	3.8	2.6
コンビニ	2.8	3.2	3.5	1.9
景気ウォッチャー	50.6	50.7	49.0	52.1

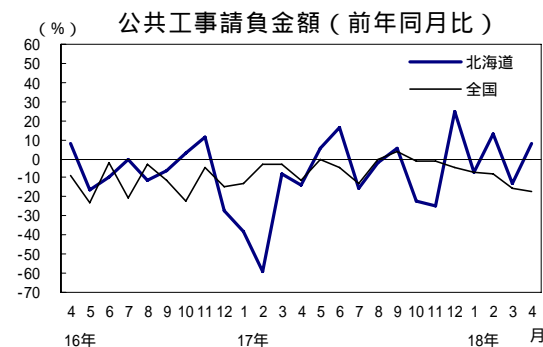
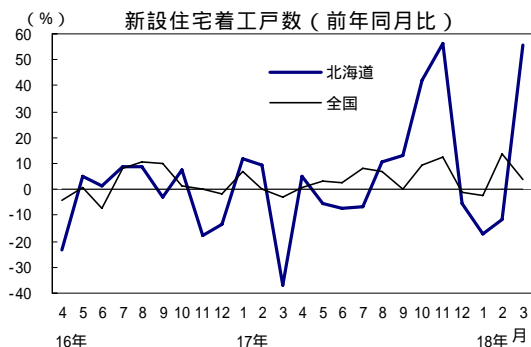
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲が前年を下回ったものの、貸家が大幅に上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年を下回っている。

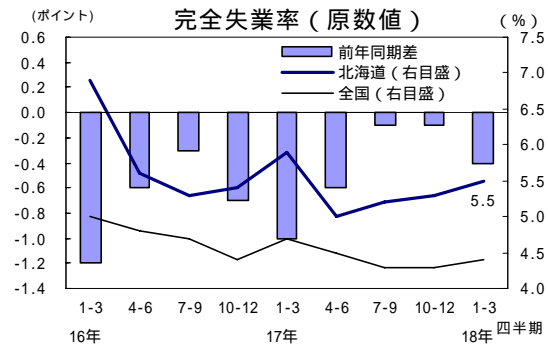
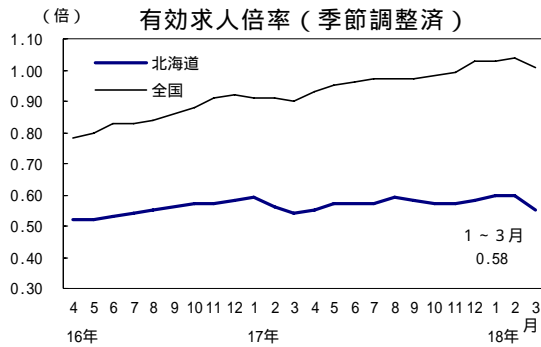


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は低下している。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

「少しずつではあるが、正社員の中途採用のニーズが高まっている。特に営業マンの求人が目立つ。人材派遣では、一般職の派遣ニーズに加えて、売上、利益につながる販売職のニーズが依然として高い。新入学、就職の時期であることから、カード会社の新規加入促進業務への派遣ニーズも高い(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

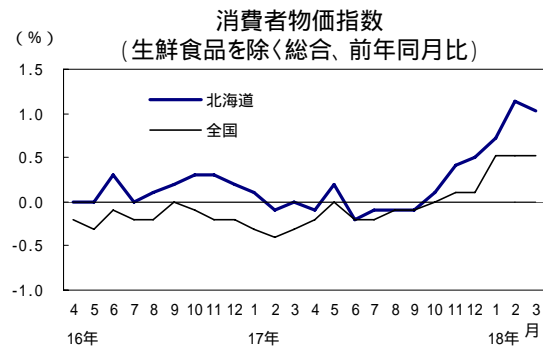
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

4月に倒産件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年4-6月	7-9月	10-12月	18年1-3月	18年4月
倒産件数	132	142	138	143	60
(前年比)	19.0	29.1	1.5	14.9	53.8
負債総額	265	421	376	471	110
(前年比)	38.9	85.8	26.4	40.2	75.7



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・例年に比べて、5月の母の日やゴールデンウィークのトラベルグッズ等の販売量が多い。直前ではなく、少し前に買うという余裕を持った買い方が非常に目立つ(百貨店)

<先行き>

- ・燃料油の更なる高騰から、船社の運賃再値上げの要請が出された。運賃の値上げを荷主に受け入れられない場合は輸送引受けの中断もあり得る状況である(輸送業)

景気ウォッチャー調査(合計)

